



Koboパーク宮城がやはば色に染まる

矢巾町ナイター



本 8月10日「矢巾町ナイター」
楽天イーグルス対北海道日本ハム
の試合が仙台市のKobo
パーク宮城で開催されました。
町民約300人と地元企業の協力を
いただき、町のPRを行いました。

これは地方創生事業の一環として
行われ、観衆2万7千人超に矢巾町
の魅力を発信するために開催しまし
た。矢巾町ブースやKoboビジョンに
町のPR動画の放映をしました。また、
矢巾北中学校特設合唱部による始球
式・試合中のアナウンス・グラウン
ドキーパー・ボールボーイを行い、
町の将来を担う世代が活躍しまし
た。

この日は、町の名所である
ひまわり畑をイメージした黄色
を使い、会場をやはば色に染め
上げ、ナイトゲームを熱くさせ
るとともに町のPRを行いました。

『ど真ん中を狙って』

「緊張しました。頭が真っ白になったー」始球式を終えた村松主将の第一声でした。

7月に町内で行われた少年野球大会で最優秀選手に輝いた白沢ベアーズの村松和主将（不動小6年・11歳）が楽天イーグルスの嶋基宏選手めがけて投球しました。

始球式を務めることが決まってすぐに体を大きく見せるためにフォームを修正。当日、村松主将がマウンドに立つとど真ん中を狙って投げたボールは嶋選手のミットに収まりました。

始球式終了後、将来について聞くと「プロ野球選手になってこのスタジアムに戻ってきたい」と夢を語りました。

白沢ベアーズ

むらまつ やまと
村松 和 主将

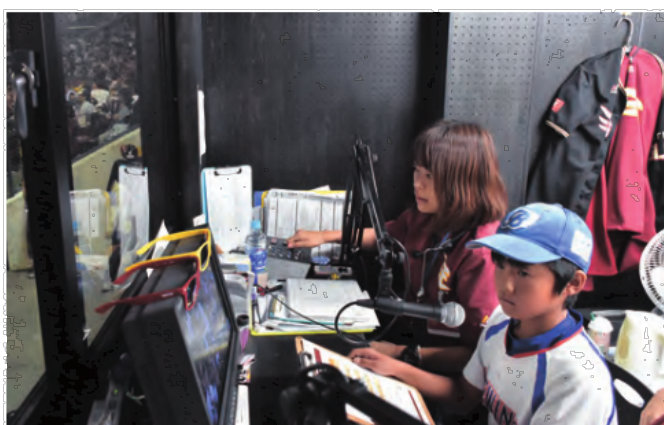




球場正面にある矢巾町ブースに並ぶ来場者



来場者に矢巾町のPRとして配布したノベルティ



スタジアムのMCブースでアナウンスをした大泉君



5回終了時にグラウンドキーパーを務めた町内野球チームの選手たち



試合開始前に国歌斉唱を務めた
矢巾北中学校特設合唱部の皆さん



「矢巾町ナイター」開催の感謝を込めて薬王堂の西郷社長
(右から3人目)と高橋町長(右から4人目)がひとめぼれを贈呈

矢巾北中学校特設合唱部35人は本塁付近から外野席を向き、多くの観衆が見つめる中、堂々と国歌を斉唱しました。歌い終わると球場から大きな拍手を浴びました。内山瑛葉部長(矢巾北中・3年)は「ゆっくりと歌うことを意識しました。大きな会場で緊張と不安がありました。歌い終わった後の拍手は心に残り、貴重な体験ができてよかった」と1カ月間の練習の成果に満足した顔を見せました。スタジアムMCを務めた西徳田ブルーウィングスの大泉輝流君(徳田小6年)は「選手の名前やファウルボールに注意するアナウンス

では、たくさんの方が見ていて緊張した」と話し、グラウンドキーパーを務めた矢巾アローズの岡田翔誠君(矢巾東小6年)は「選手が普段使っているグラウンドを整備できてよかった。土や芝がフワフワしていて高級感があった」と貴重な体験を話してくれました。地元企業(株)薬王堂の西郷社長は「町の企業として役に立ち、次世代につながる活動に貢献できてうれしい」と語り、高橋町長は「参加した町民の皆さんは今日の体験を自分のものにして将来に生かしてほしい。町としては地方創生の起爆剤にしたい」と話しました。